



Point1 長袖、長ズボン、帽子、運動靴などの服装

Point2 子どもの森では、自然環境を保全するため、山菜や花、昆虫など動植物の採集は禁止

(注) 必要によりマスクの着用、携帯用の消毒液なども持参しましょう。

※11月頃まではスズメバチに注意が必要です。ハチや巣を見つけたら絶対に近づかないようにしましょう。

里山散策時のポイント

市内には多くの里山がありますが、お子さんなどと訪れる場所として人気なのが「みなくち子どもの森」です。園内に約2kmの散策路があり、約30分から60分で一周することができ、コナラやヒノキ、杉などから漏れる光を浴び、自然を満喫しながらのウォーキングにも最適です。また、園内では四季を通じて草木や鳥、昆虫などの動植物を見ることが

秋の里山へGO!



▲鮮やかな紅葉が見られる散策路

マスクの着用や手洗いなどが必要ですが、密を避けたうえで時にはマスクを外し自然の空気を胸いっぱい吸い込んで気分転換をしましょう。

さらに昆虫好きのあなたには…
秋の昆虫リストはこちら▶



みなくち子どもの森

●開園時間：9:00～16:30

(自然館への入館は16:00)

●休館日：月、祝日の場合はその翌日
入園は無料ですが、自然館への入館は高校生以上200円、小中学生100円

☎63-6712

問合せ

あなただけの甲賀の宝を見つけに



甲賀の地には他市にも誇れる多くの宝(自然)が残っています。見渡せば色づく山々、静かに流れる川のせせらぎ、広がる田園風景など、それぞれにお気に入りの場所や風景があると思います。季節は少しずつ冬に向かいますが、秋にしか見ることができない景色もすばらしいものです。新型コロナウイルスへの新しい生活様式を実践しつつ、あなただけの甲賀の宝(自然)を見つけに出かけてみてはいかがでしょうか。

芸術の秋、塗り絵にも挑戦!

おなじみのセミやトンボ、バッタなどの昆虫塗り絵をたくさん用意しています。お子さんとどちらが上手に塗れるか競争してみてください。

- 昆虫塗り絵のページはこちら
- 甲賀市ホームページからもダウンロードできます。



ここで紹介した以外にもみなくち子どもの森にある散策路にはクイズをたくさん用意しているのぜひ、実際に歩いて答えを探してみよう。

ヒント

体のとくちようをあらわした生き物が多いよ。散策路にあるため池付近で見つけられるかも? セグロセキレイの背中が黒い!!?



Q3 「セグロセキレイ」はどれ?

ヒント

子どもの森の散策路を歩けば草むらで見つけられるかも?



Q2 「カナヘビ」はどれ?

ヒント

みなくち子どもの森自然館の入り口前に並木があるよ。



Q1 「メタセコイア」の木は、どちら?

秋の自然クイズ!
クイズで学ぶ身近な「自然」
里山クイズ

子どもたちの元気な声を里山に

里山元気会理事長
藤井 忠夫さん



私たちが子どもの頃、生活に必要な不可欠であり遊び場でもあった「里山」を現代の子どもたちにも伝えることで次世代へ引き継いでいこうと2004年に設立しました。活動場であるこの場所も以前は棚田でしたが、メンバーの力により、現在では野菜やシイタケの栽培を始め、火おこしや、パン作りなどが体験できる場として復活させました。

保育園や小学校、子供会などから申し込みがあり、自然体験を通じて環境学習にもつながると好評です。今後は、市内の活動団体とも連携した活動や、工作教室、写生会などにも活用できるようにと考えています。

メンバーも活動を通じて子どもたちから元気をもらっています。ぜひ今後若い世代が我々の活動を引き継いでくれることを期待しています。



▲キノコの説明を熱心に聞く子どもたち

現在は新型コロナの影響により活動を自粛していますが、収束後はぜひ子どもたちの元気な声が里山に響くことを願っています。

問合せ

NPO法人 甲賀の環境・里山元気会

☎090-6206-1515 / ☎62-8443

✉44tyuf1518@ac-koka.jp

<https://satoyamagenkikai.jimdo.com/>

自然とのふれあいで感性を磨く
これからの里山の役割とは
長い期間をかけて、人の生活利用に応じたさまざまな環境が存在することになった里山。そこは環境に適応した多様な生物が暮らす場所でもあります。私たちが生活の一部として利用していた時代が過ぎ、近年では人が手を加えることが少なくなったため、人が立ち入れない樹林や藪に変化している場所も少なくありません。生育が旺盛な一部の木や草のみが残り、陽当たりの良い明るい場所に生息する里山の動植物の多くが減少しつつあります。一方身近な場所でも、イノシシやシカ、サル等による被害が増加した背景には、里山の手入れ不足が関係しているといわれています。

身近な自然と虫や動物との触れ合いの中で生き物の命、季節の変化や風景を肌で感じることで

感性を育んできた時代に比べ、現代では、外で遊ぶ機会が減り、子どもたちもゲーム世界の中で動物との触れ合いや暮らし体験をするなど、自然との距離は遠くなっていることが心配されます。一方で、里山を活用し、その良さを伝えていこうとする活動も広がっています。市内で里山保全の活動をされている「NPO法人甲賀の環境・里山元気会」にお話を伺いました。